

タクシーの規制・政策をめぐる議論が政治の舞台で再び盛り上がり始めた。国土交通相らの交代で国会が正常化し、民主党議員連盟の議員立法「タクシー事業法案」に対する与野党協議は本格化し始めた。こうした状態をもたらす「ねじれ国会」ながら、供給の抑制、安全・労働などタクシーへの問題意識は各党派間でさほど変わらない。消費税増税審議、高速ツアーバス安全対策などの合間に縫つて事業法案はどこまで進展し、最終的に成立するのか——。二大政党でそれぞれ政策立案を担う民主党的辻元清美国土交通部会長と自民党的望月義夫交通部会長に、タクシー事業法案に臨む姿勢や業界への期待をインタビューした。(聞き手)仁平英紀(記者)▼1面に関連記事



自民党・国交部会長

## 望月 義夫氏

——タクシー特措法の施行から2年8ヶ月が過ぎた。現状をどう見ているか。

——タクシーの台数やサービス、労働などについて規制緩和で台数は増え基本姿勢を伺いたい。

——タクシーの規制緩和が進んでいます。このままでは、事業者が収入を減らして困る可能性があります。

——タクシーの規制緩和で台数は増えない。こうした現状を食べ止めたい。規制緩和の弊害を含め、タクシー特措法の不十分な点を見直そうと議員連盟で法案を作った。政権交代し、国土交通副大臣に就



民主党・国交部門会議座長

## 辻元 清美氏

——社会全体で規制緩和が行われている時代に、タクシーは良い部分もあった

——タクシー事業法案に対する党内の合意形成、野党との調整、国会提出・成立の見通しあるか。

——タクシーの議員立法は

——タクシー事業法案に對する党内の合意形成、野党との調整、国会提出・成立の見通しあるか。

——タクシー特措法の不十分な点を見直そうと議員連盟で法案を作った。政権交代し、国土交通副大臣に就

## 事業法成立、全会一致日指す

(昨年以降、继续審議の)交通基本法は何としても

有志の議連による扱いか

任した際、最初の仕事は特措法通達の関係だったこと、が思い出深い。適正な姿を追求し続けることが大事だ

決めた。今後、国交部門会議で審議することになる。

法成立の時と同じように全会一致で通したい

——6月21日が会期末の今国会で可能か。

何とも言えない。他党の手続きを突っ走らず、議連

## 全タク連総会特集

への働きかけで良い感触が得られれば部門会議で審査決定し、国会へとなる。先走らずに丁寧にやっていきたい。

——タクシー業界に期待することは、「苦しい」とばかり言つて、「よろしく」という要請し、場合に税と社会保障の一体改革の審議があり、国土交通関係でも高速ツアーバス運転者を含め、ポジティブに自分の可能性を引き出しつほしい。病人や妊婦などのニーズに積極的に応え、山のようにある問題やタンカーの法案など

## 政界キー・パー・ソーンに聞く

——タクシー特措法の実質がうまく進んでおらず、タクシードライバーの利用客をどう守っていくかが大切な視点になる。労働条件など

——タクシーの活動について、民主党内で議員立

——タクシー特措法の実質がうまく進んでおらず、タクシードライバーの利用客をどう守っていくかが大切な視点になる。労働条件など

——タクシー特措法の実質がうまく進んでおらず、タクシードライバーの利用客をどう守っていくかが大切な視点になる。労働条件など